



石見だよい

活力のあるまちづくりを

2013.1.3
第47号

編集／広報委員
発行／石見自治会 TEL44-0035



新年あけましておめでとうございます。自治会員の皆様におかれましては、益々ご健勝でご家族と共に新春を迎えられ、心からお慶び申し上げます。

私も総代就任後、四回目の新春を迎えたました。

昨年も皆様方より多大のご協力ご支援と変わらない厚いご声援をいただき深く感謝いたします。

昨年十二月の衆議院選挙は、多党が林立し激しい選挙戦でした。国内外で抱えている諸問題の中で、多くの国民は真っ先に経済対策を上げられました。

本年は、デフレ経済を脱却し、景気が



石見総代 川口 靖夫

謹賀新年



良くなるよう願うばかりです。

さて、当自治会においては、私が総代就任時に皆様にいくつかの約束をいたしました。

一つ目、石見公園墓地に隣接する東側、南北に通じる道路の整備は、約三年間糾余曲折がありましたが、昨年十二月町予算約二一〇万円で舗装施工いたしました。住民の熱望が私には強い後押しとなり、行政を動かしたものと思っています。

二つ目、住民の生命と財産を守り、喜びを与えるためには、防災・防犯・環境美化のボランティア組織の確立が肝要です。昨年十一月十八日高等技術専門校の体育館をお借りし、「第三回防災実地体験」を実施いたしました。継続は力なりで、年中行事の一つに加えたいと考えています。

防犯については、青色パトロール・学童の登下校見守り隊は、学校の休日を除き年中行っています。環境美化は、昨年十二月新池水辺公

園の一角に、県から五〇万円の補助をいただき「シンボル花壇」を作りました。

以上は、自治会組織で実行しております。

三つ目、高齢者一人住まいの方への協議費軽減であります。予算の算出基礎になる該当者数の把握が困難で苦慮しているところですが、皆様のご協力を得てぜひ実現したいと思っています。

どうぞ、本年も良い年でありますよう祈念してあいさつといたします。



美しく整備された墓地前の道路

総代選挙のご案内 選挙管理委員会

◆立候補者の受付

平成二十五年一月十一日（祝・月）

受付時間 午前中

受付場所 石見公民館

投票日

立候補者の受付日から十五日以内の日曜日



**石見鏡神社秋祭り
盛大に実施！**

昨秋十月二十日・二十一日に行われました秋祭りは、宵宮、本宮ともに穏やかな秋晴れに恵まれ行事がスムーズに進められました。

鏡作神社のお祭りを盛り上げる一環として実施されている宵宮の「演芸大会」は、

例年と違い実行委員会をつくり自主運営することとなり、出演者も観客の人数も例年より多く、出演者は日頃の練習成果を發揮され、観客の皆さんも充分楽しんでいただ

き盛り上りました。

「ふるさと塾いわみ」の皆さんによる燈火会も神社内を幻想的に照明され、また、子どもたちに振る舞われた綿菓子も大人気で喜んでもらえたと思います。

いじめの発見には、

◆家庭・地域の理解と協力が必要である
◆学校行事やPTA活動に積極的に参加し、保護者同士、大人同士の関係を作つてい

く
◆多くの大人たちが、地域の子どもを見守る環境を作つていくため、積極的に「あいさつ運動」を進める

ことなどが、話し合われました。
「あいさつ運動」の推進に、皆様のご協力をお願いいたします。

もたちとその保護者の皆さん元気な歓声が、公民館前や模擬店のある神社境内に満ち、祭りの雰囲気が大いに沸いていました。本年も一層盛んな秋祭りにしたいもので

す。(演芸大会実行委員長 副総代 橋本幹夫)

**ストップ! いじめ!
地区別懇談会**

もたちとその保護者の皆さん元気な歓声が、公民館前や模擬店のある神社境内に満ち、祭りの雰囲気が大いに沸いていました。本年も一層盛んな秋祭りにしたいもので

す。(演芸大会実行委員長 副総代 橋本幹夫)

地域でできること

通学途中や塾の行き帰りなど、学校や家庭以外での生活の中で、子ども達がいじめられているケ

ースもあります。
学校や家庭で発見しにくい地

域でのいじめの実態を把握できれば、早い解決につながります。

こんな光景を見かけませんか?



- 公園などで一人の子を何人かで囲んだり、小突いたりしている
- 登下校中に一人の子が他の子の荷物を持たされている
- 集団(遊び)の中で一人だけ様子がおかしい
- スーパー・コンビニなどで品物をおさらされている
- 道端や公園などで、一人ぼんとしている
- 個人を中傷する落書きが書かれている

心配な子どもを見かけたら、すぐに声をかけ、気になる言動を見かけたときは、その場で、毅然とした態度で対応しましょう。

自治会では、「やさしさとふれあいのあ
る石見づくり」を目指して、豊かさを実感
できる安全安心で快適な生活環境づくりに
努めています。

その一環として、花づくりをとおして地
域の皆さんのがつながりを深めるとともに、
美しいまちづくりを進めることで自分たち
の地域に愛着をもつていただければと「花
いっぱい運動」を推進しています。

この度、石見フラワーチームでは、奈良
県の「地域でつくる花いっぱい運動支援事
業」の補助事業を活用して、フラワーパー
クレンジヤーの会（代表 松崎啓子さん）
の指導、助言をいただき、新池水辺公園東
屋の北隣で、シンボル花壇づくりを進めて
きました。

十二月二日に、



幼児や小学生をは
じめ子ども会、P
TA石見支部、フ
ラワーチームなど
約三十人で、協力
し合いながら楽し
く花を植えました。

シンボル花壇が完成! 新池水辺公園

花壇の中央に池を配し、「あざさの花」を
浮かべ、周囲を三十二種類五六〇株の草花
で配色よく植えられたシンボル花壇が完成
しました。

子ども達は自分で植えた花に語りかけて
いました。

きれいな花をいつまでぞ。
春にはチヨーリップを咲いてね…



お花のおへんじ

寺れいに植えてくれてありがとう。いつまでぞ
元気に咲きます。皆さん可愛がってね…

今回は、何よりも世代間交流の良い機会
になつたと思ひます。

皆さんも、新池水辺公園にお立ち寄りい
ただき、シンボル花壇を末永く可愛がつて
いただければ幸いです。

（環境美化副委員長 平岡 賢一）

奈良県自主防犯・防災 リーダー研修を受講して

昨年十月十三日（土）～十一月一日（土）
にかけて四日間、普通救命実技を含む十四
講座を受講しました。

女性の立場で防災活動を考えて欲しいと
の、自治会からの要請でした。
今回は、受講人数が大変多かつた様です。

東日本大震災、紀伊半島南部の豪雨による

災害等で、各地域の防
災意識が高まつてきて
いるという事だと思いま
す。

日本列島の約七割が
山地で、地質は脆弱な
うえ多くの断層、構造
線が走っています。梅
雨前線、台風等の豪雨
もあり、世界で四番目の多雨国。活火山は
百十を数え、世界第二位。マグニチュード
八・〇以上の地震も世界で約二割が日本で
発生しているそうです。

このような国土に暮らす私たちは、いつ、
どこで災害に遭遇するかもしません。

幸い私たちの地域は、ほとんど災害もな
くありがたいと思う反面、防災意識も低い
のではないかと思われます。

今回受講させていただいて、たくさん
知識を得ました。少し意識も向上したよう
に思います。

まず身の回りのやれる事から一つずつや
つていき、「自分の命は自分で守る」、また、
地域の人達と協力し合えるつながりを持ち、
「自分たちの地域は自分たちで守る」とい
う「自助・共助」を実践できるよう、努力
したいと思つています。

（防犯副委員長 中條 美佐子）



特集

第二回石見自治会自主防災訓練 「避難所体験訓練」

石見自治会自主防災活動も足掛け四年目になります。

その間、総合訓練を中心に、防災倉庫の機材点検、消火栓・小型消防ポンプを使用しての放水訓練、公民館での心肺蘇生法・三角巾使用法の救護訓練、自治会のイベント毎の焼き出し訓練等、あらゆる機会を利用して、個別訓練を重ねながら、防災活動を進めてきました。

自主防災の原則は「自分の身は自分で守る」です。

それには、防災活動の四本柱、

- ◆ 「消防訓練」
- ◆ 「避難誘導訓練」
- ◆ 「救出救護訓練」
- ◆ 「給食訓練」

の必要性を理解し、それらの知識の習得と、関連する諸機材の使用技術をマスターすること、実戦訓練を通じて、地域のコミュニティの向上を図ることが大切です。

当地外の有識者「磯城消防署・三宅消防団第三分団・奈良防災士会」等、皆様の有意義なご指導もありますが、何より各地区的自治会長さん達を軸として、会員各位の

積極的な協力の結果、今では一定の水準に達せられたと思っています。

一例ですが、三宅町が配備した諸機材の一部ではありますが、地域の皆様方独自で応用使用できるまでに習得されています。

そこで、今年度の総合訓練は、「実際に災害が発生して、三宅町より避難指示が発令されると、対象者は全員、一時避難所に指定されている奈良県立高等技術専門校に避難しなければならないのに、専門校がどのような設備内容のものか分からぬので、日々大変不安を感じています」との声が寄せられましたので、関係者一同協議し、高等技術専門校の体育館をお借りし、テーマ「避難所体験」とし、十一月十八日に実施しました。

防災委員会では、数々のアドバイスを受けながら「避難所体験訓練」実施のプランニングの中で、今回の総合訓練は、自治会員の皆様に「避難所の内部をよく知つていただこう」そして、「身体で実感していただこう」を訓練課題といたしました。

そして、本番に臨みましたが、経験不足によるプランの甘さによつて、皆様方には



(防災委員長 池田 勝)

一方、今回の訓練は実践的で非常に良かったとの、励ましのお言葉もいただいています。

今後は、皆様方からいただきました色々なご意見を活動課題と受け止め、防災活動を推進して参りたいと思っています。

更なるご支援ご協力の程お願いいたしました。

避難所では、みんなで協力し合いながらダンボールや毛布を使用して、グループ単位で避難場所を確保した後、被災地で実際にあった問題について話し合い、その結果内容を発表し合いながら、避難所での諸問題について、学びました。



ご高齢の方が「避難所に家で飼っている犬を連れてきたい」「家族同然なんです」と申し入れがありました。さて…

- ・避難所に連れてくるのは可能
- ・屋外での飼育を条件
- ・避難所でのルールをマニュアル化する



避難所には町の職員がいません。校長先生もいません。その時、支援物資が届くという連絡が入りました。さて…

支援物資を分配するために、次のことを決めました。

- ・私たちの自治会は5ブロックあり、各ブロックを代表する者を決める
- ・各ブロックのエリアを決定する
- ・支援物資の受け取る責任者を決める
- ・各ブロックから避難者の名簿の提出を受ける
- ・支援物資の分配方法を協議する
- ・避難者の健康状態を把握する



大地震のあと避難所に着きました。避難所には多くの人が避難しています。ざっと見渡したところ、私たちの場所（スペース）がありません。と思っていたら、三宅町以外と思われる人もいます。さて…

- ・とりあえず避難場所にいれてもらう
- ・事態が鎮静化した時、次の対策を考える
例えば、体育館以外の教室の開放をお願いするなどして、一人でも多く避難してきた人を受け入れる



避難所のトイレが一杯になりました。しかし、今後も避難所生活が続きます。さて…

- ・広場があれば、段ボール等で囲いを作り、穴を掘りそこで用をたす。後は土で埋める。
- ・川があれば、川で用をたす。

トイレ問題は悪臭、衛生面等を考えるともっと大変だと思う

避難所に地震で亡くなられた方が運び込まれてきました。さて…

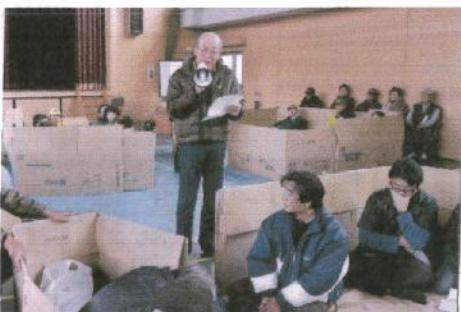
- ・あくまで状況が状況であり、とっさの事の判断ですので、建屋の中でスペースがあれば、安置所を設置（室内が無理な場合、外へ移動）
- 仏様に布を掛け、手を合わせて安置する。
- ・状況に応じ余裕があれば、何処から運び込まれたか、また、性別を確認して紙に書き明示しておく



大地震後、子どもが心配で学校へ向かいました。途中、生き埋めになっている人を発見！周りには誰もいません。さて…

当チームとしましては

- ・生き埋めの人を優先して救助する事にしました。
理由は、三宅小学校は耐震工事も完了しており、また先生方もおられますので、子どものことは、先生にお任せして、まず、緊急を要する生き埋めの人の救助を優先します。一人では無理な場合は、救助の応援の人を探します。



避難所生活も数日経ちました。「自宅に一度戻りたい」という声が上がっています。町は、安全が確保されるまで立ち入り禁止と言われています。さて…

- ・戻りたい理由は多くあると思われますが、一時緊急的に帰宅したいその内容、また重要性があるか聞き、対策本部に要請し、指示を仰ぐ
- ・自分たちで勝手に判断し、行動は行わないと決定しました。



避難所で家族と連絡が取れないので、自治会として何とかしてほしい。さて…

- ・自治会として捜索には出れないでの、避難所の連絡掲示板に張り出すことを勧める
- ・他の避難所への連絡を対策本部へ相談する
- ・日頃から、家族内で緊急時の避難場所を決めておく
- ・自治会名簿は自治会長が持ち出せるようにしておく
- ・避難者カードは、事前に各家庭で記入しておく





避難所に食料が到着しました。しかし、100人分しかありません。避難所には300人の人がいます。さて…

- ・小さい子どもや老人、病人、妊婦の方々など、健康に留意しなければならない人を優先的に配分し、残った食料を健康な人達で分ける



避難所にボランティアがいません。噂では、他の避難所にはたくさんのボランティアが応援に来ている。と聞きました。さて…

- ・まず、今現在の人員の中からボランティアを募り、役割分担を決め、かつ他の避難所への要請を依頼します。(噂に惑わされないで行動)

参加いただいた方々から多数の感想が寄せられています。

日頃の備えが大切

南町二丁目自治会長 池田 浩

今回の防災訓練はとても有意義なものでした。

実際に自宅のある南町二丁目から、一時避難所になる高等技術専門校へ徒歩で移動することにより、どのあたりを注意して移動したらいいのか、体感できました。

地域の皆さんにも参加いただいたことにより、災害が起きた際にどう行動するのか、ご理解いただいたことも良かったと思っています。

今回の訓練を通して感じたことは、日頃から各自での備えがとっても大切なことです。

改めて防災について考えることができた一日でした。



感想

参加いただいた方々から多数の感想が寄せられています。

十一月十八日に行われました石見自治会主催の防災訓練に参加いたしました。

参加者は総勢一三〇名と多数の方が来られていきました。
訓練は、ダンボールを使っての間仕切り作りでした。

一昨年の東日本大震災時に、よくテレビで見たあの光景です。その中で、もしもの時、体育館の中はこの時期とても寒くて、直に座つたり寝転んだりするには、「あれがあれば。」「こうすれば寒さを防げる。」「プライバシーはどうか。」「避難場所には名簿を作成して張り出す。」とか、様々な案が出ていました。

訓練を繰り返し繰り返し体験することにより、身体で覚え、万が一の時にもとっさに行動できるのではないかと実感いたしました。

訓練を繰り返し繰り返し体験することにより、身体で覚え、万が一の時にもとっさに行動できるのではないかと実感いたしました。

常日頃から、防災意識を持つて行動することにより、災害時における被害を減少させることができます。

今回の訓練が生かされますよう、そして生かすような災害が起きないでほしいと切に願っております。

ダンボールで間仕切り体験

中町二丁目自治会

ブロック委員 竹林 栄子

ベビーカーを押して

中町三丁目自治会長 林田 直輝

私は、石見地区の防災訓練に参加させてもらいました。

また、中町三丁目からは五名の方が参加され、その方々と共に一時避難場所に集合した後、避難場所である高等技術専門校に徒歩で向かいました。

参加者の皆様には寒い中、防災訓練の重要性及び必要性を十分に發揮していただき、積極的に参加していただいたことをこの場をお借りして感謝申し上げます。

さて、避難訓練ですが、私は小さい子どもがいる家で、その子どもが災害により怪我を負ったという設定で、ベビーカーに六歳の長男を乗せ、五歳の次男の手を引き、参加者の方々を先導しながら避難場所に向かいました。

訓練日は幸いにして降雨等はなく、比較的スムーズに

避難場所まで避難することことができました。が、二人の子どもを連れての避難は非常に融通が利かないもので、



参加の方々にまで、気配りをすることができなかつたように思います。

実際に災害で避難を余儀なくされれば、今回のように訓練で使用したアスファルト舗装の通路が使用できるとは限りません。ですので、災害によりアスファルト舗装されていない道路でベビーカーを押しながらの避難となりますと、幼児や高齢者の足にとっては、かなりの負担になり、今回の訓練のようにスムーズに避難場所まで避難できなと思います。

また、これらの問題解決のためには、今回の一回の訓練のように機会があれば積極的に参加し、避難経路や自治会員同士の連携を築いておく必要が重要だと感じました。

今回参加されていない方は、是非機会があれば積極的に参加され、避難時における問題点や改善策を研究し、問題点等の解決策を自治会や行政機関に向けて発信して欲しいと思います。

私たちが避難所に到着し、ダンボールや毛布を使用して中町三丁目の区画を確保する訓練を行い、その後各避難所で実際にあつた問題について討議する時間がありました。私は、今回の訓練を通じて石見自治会が一丸となり、助け合うことが災害に遭った時の唯一の手段であると感じました。

備えあれば憂いなし

西石見自治会長 能登 義弘

西石見から女性三名、男性七名が防災訓練に参加しました。午前九時のサイレンを合図に自治会内の一時避難場所である公園に集合。参加者の確認後、広域避難所である高等技術専門校へ向かう。西石見からはかなり近いので九時十分過ぎには到着。指定された自治会の場所にて待機。待機の間、役員会にて配付させていただいた書面にて、今回の流れを簡単に説明する。十時過ぎには各自治会が集まり終えて、関係者の挨拶。用意されていたダンボールにて自治会毎の居場所の間仕切り作り。今回は訓練であるため、事前にダンボールが用意されていましたが、少し不足を感じられました。そして、防災講習会として奈良防災士会の方からの説明で、防災に対する心構え、避難所のスライド学習をしました。

参加者の感想として

- ・情報の一元化のため本部の役割を誰でも分かるよう壁にも指名を入れて掲示
- ・説明者の声が聞き取りにくかった
- ・何度も訓練をする必要がある
- ・訓練へ参加するのが大事であり、各自治会役員が人集めに努力してほしい
- ・各自治会に防災倉庫を設置することも考えてほしい
- とにかく備えあれば憂いなしですね。

冷静な状況判断を!!

北町二丁目自治会長 上田 幸司

人はとつさの時、気が動転して何をどうすれば良いか分からなくなるものです。しかし、皆さん、そのような時は、まず落ち着くことが大切です。

今回の訓練が、冷静な状況判断ができる参考になりました。

「普段の訓練の積み重ねで未然に貴重な生命や財産を守ることに繋がります。万一災害が発生したとしても、被害を最小限に止めるることができますので、自分のこととして真剣に訓練に取り組んでいただければと思います。

頭での理解より体得

異垣内目自治会 岡田 修

午前九時のサイレンを合図に防災総合訓練が十一月十八日（日）に行われた。

今年は、例年にはない避難所体験が得られるとの期待をもって参加しました。

私たち、異垣内二十六世帯中十人が一時避難集合場所地「ヤクルト販売所前」に集まつた。遠藤会長からの指示で当地から被災負傷者を（想定して）車椅子に乗せて〇・五キロ足らずを避難移動した。道端に段差あり、対向自動車あり、近鉄の踏切横断

など冷静にかつ

慎重にしつかり安全確認をしながら十分余りで

広域避難所「高等技術専門校」に到着。続々と、他の地区からの避難者も合流して、すぐに体育馆の中は混雑状態になつた。

館内では川口総代の挨拶に池田防災委員長や特別来賓者がこの訓練目的やねらいについて、OAスライドも使用し、分かりやすい説明をされた。ハンドマイクの声が聞こえなかつたり、画像が見えなかつたり、床に引く毛布は大丈夫？日頃の点検と整備を…。頭で理解より体得することの意味合いを再認識しました。

炊き出しご苦労様でした

異垣内目自治会 竹村 和彦

十一月十八日九時のサイレンを合図に、石見地域全体の防災総合訓練が始まりました。

私は、一避難者として参加、石見公民館前で良垣内参加者全員集合の後、指定された避難経路を通り、高等技術専門校へ向

いました。

高等技術専門校へ集合したのは、総勢百三十名でした。

今回の訓練は、初の試みらしく、避難場所に集合した後、どのように避難生活を送るかというものでした。

県防災士や訓練指導員の指導のもと、南海トラフによる地震の被害想定や東日本大震災での教訓。ダンボールを使っての区割り。過去にあつた事案をもとに、色々の事態を想定した質問に対するグループ討議から発表した後、非常食の試食で終了でした。

私個人としては、いずれも未経験のもので、体に覚えさせるという訓練の大切さや日頃からいかに震災に対する備えをしておくか、改めて考えさせられる訓練になつたと思います。

今後も機会があれば、震災訓練等には、積極的に参加したいと思います。

最後に、豚汁大変おいしかつたです。

ご馳走様でした。



第三回石見自主防災総合訓練
防災副委員長 中條正昭

新年明けましておめでとうございます。

昨年、十一月十八日に第三回総合防災訓練が行われました。なお、当日はぐずついた天候にもかかわらず多くの方（百三十名）に参加していただき、有意義な防災訓練であつたと思われます。

今回は前二回と趣向を変え、朝九時に地震が発生したとの想定で、サイレンの合図により各自、各地区の避難場所へ集合し、その後、石見の一時避難所に指定されている高等技術専門校へ避難するという訓練が行われました。そうして避難したあと各地で実際に避難所生活（東日本・阪神淡路大震災）で問題になつた色々な課題をエリア毎にディスカッションしていただきまし

た。
その後、避難食と豚汁をいただき無事防災訓練を終えることができました。
しかし、本当に巨大地震が発生した時、この様にスムーズに行くとは限りません。その為には日頃の防災に対する心掛け、また、訓練が必要だと思います。そして「自助」「共助」（地域の住民同士の協力）がなによりも必要ではないでしょうか。阪神淡

路大震災で要救出者約八割を救出したのは近隣住民と言われています。だからこそ防災訓練を通じて近隣住民との繋がりを深めなければと思います。また後日、怪我をした人が避難してきた時、簡単な応急処置をする救護コーナーを設置したらどうか：等、色々な意見がありました。このようなことを踏まえ防災訓練を四回、五回と続けるには住民の皆様の協力があつてのことです。

私たちも住民の皆様の様々な意見、指導を頂戴して、より充実したものにしていきたいと思っております。

最後になりましたが、当日参加協力いただきました「奈良防災士会」事務局長の植村信吉様をはじめ、毎回お世話になつている婦人会石見支部の皆様、消防団の皆様にはこの紙面をお借りしてお礼申し上げます。

ていただきました池田防災委員長、中條副委員長以下スタッフの方々及び豚汁、避難食を担当していただきました石見婦人会の方々のご足労により、有意義に終えましたことを厚くお礼申し上げます。

問題提起による各地区代表者の活発な意見等内容も良かったと思います。まだまだ、内容に反省もあり未熟な点もあるうかと思いますが、続けることが大事で、今後は年中行事の一つに入れ、毎年実施している「通井張」のように、みんなが参加の形態を持っていきたいと考へておる次第です。

今後もご協力の程よろしくお願ひいたします。

自主防災総合訓練を終えて（おれ）
綾代 川口 順夫

第三回石見自主防災総合訓練を今回も過去二回とは別に趣向を変え、高等技術専門校の体育館をお借りして実施いたしましたところ、各地区自治会長及び各種団体並びにその他関係団体からたくさんの方の参加があり、また、企画・計画から準備まで担当し

実施します 防災すきんづくり	
◆ 日 時	平成二十五年二月十七日(日)
◆ 場 所	石見公民館 大広間
◆ 持 参 品	バスタオル一枚 洗面用タオル一枚 縫い針、糸、糸切りハサミ
参加希望される方は、後日回覧板の用紙にご記入ください。	

はつ春の晩の社に鳥の鳴く
鳥にも祝詞告げて里ゆく